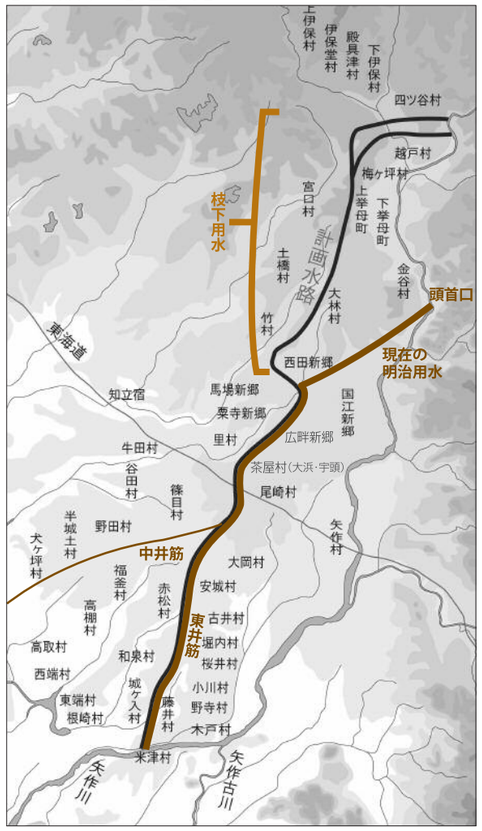
一、弥厚が計画したのは明治用水？

弥厚は「明治用水の計画者」として知られていますが、計画したのは明治用水だけではありません。現在の枝下（しだれ）用水（現・豊田市）と明治用水を合体させた、32㎞に渡る壮大な用水を計画していました。

都築弥厚の計画水路



森の中を流れる枝下用水

弥厚が幕府に提出した計画願書には、「加茂・碧海両郡」とあり、豊田市も含めた計画を考えていたことが分かります。弥厚は安城の偉人として知られていますが、実際はより広域にわたる用水計画を考えていたのです。

二、農民が用水計画に反対したのは、無知だったから？

水枯れであっても、碧海台地は決して「不毛の地」ではなく、農民たちは植林などをして生計を立てることができていました。用水が通ると彼らの土地は田んぼに開拓されてしまうため、彼らが用水計画に反対したのは当然の成り行きでした。

農民たちは水枯れの土地に松を植林し、その枝や葉を肥料や燃料として使うなど、彼らなりの工夫で生活を営んでいました。「弥厚のすばらしい用水計画に反対する無知な農民」という構図が描かれがちですが、それは事実ではありません。

約110年前の農林学校の実習田の様子。後ろに松林が広がる。明治用水が通る前にはよく見られた原風景

三、弥厚が評価されているのは、用水計画のアイデアが斬新だったから？

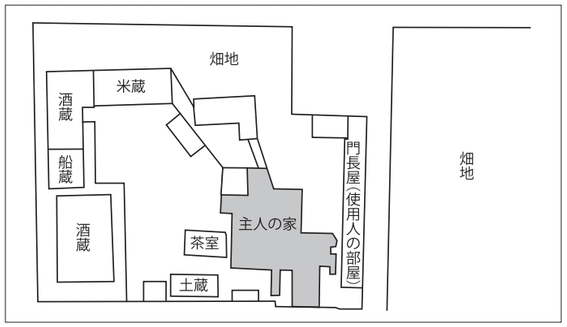
決してそれだけではありません。計画を実現させるため、領主や商人などを説得した力量、幕府を動かすことができるほどの経済力と政治力、そして、本来幕府直営で行われるべき用水計画を、商人が推し進めたという行動力。弥厚はこれらすべてを兼ね備えていました。

弥厚の生家は三河で一、二位を争う酒造業者でした。大変な土地持ちで、ひとつの村を上回るほどの石高（土地の持つ生産力）を誇りました。また、計3500坪もの居宅などを所有していました。

都築家と近隣村の石高比較

都築家	2070石
福釜村全体	545石
箕輪村全体	250石
高棚村全体	969石

都築家の本家間取り図（和泉村）



特別展では、弥厚の実像にさらに深く迫ります。ぜひご来館ください。

特別展「台地を拓く 都築弥厚の夢」

弥厚関連の資料を豊富に集め、家業や俳諧・茶道などの文化活動、そして用水新開計画などを様々な視点から紹介します。

会期　11月7日(土)～来年1月24日(日)
開館時間　午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日　毎週(月)（ただし11月23日(祝)、来年1月11日(祝)は開館）
12月28日(月)～来年1月4日(月)

記念講演会〔いずれも午後2時より・予約不要〕

- 11月7日(土)　歴博講座「新たな都築弥厚像を語る」　講師：三島一信（本館学芸員）
- 12月5日(土)　講演「都築弥厚の新田開発と明治用水」　講師：神谷智氏（愛知大学教授）
- 来年1月16日(土)　講演「都築一族と酒造」　講師：曲田浩和氏（日本福祉大学教授）